



2021 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第3戦&4戦

開催場所 オートパラダイス御殿場(静岡県)
開催日 7月10日・11日
参加台数 OK クラス34台
天候 土曜日 くもり / 日曜日 晴れ
路面状況 土曜日 ドライ / 日曜日 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督 : 佐藤奨二
ドライバー : 佐藤凌音
メカニック : 伊藤進 / 仁科真一
エンジン担当 : K SPEED WIN
アドバイザー : 井上寛之



2021 全日本カート選手権 第3&4戦 (オートパラダイス御殿場)

前大会鈴鹿から約ひと月半の期間をおき、第3&4戦の舞台は静岡県はオートパラダイス御殿場へ。前回大会では屈辱的な結果となり雪辱に燃える大会となる。事前のタイヤテストでもタイムは上位で、タイヤテスターでアドバイザーの井上氏からもマシンポテンシャルは上々で、ほぼ上位に到達しているとの見解もあり、あとはドライバー。OK クラスも3年目となり表彰台が欲しい佐藤。前回大会の悪夢をふりきって全力を出して欲しいところだ。レースウィークは当初天気予報で全ての日で雨マーク。しかし大会が近づくとつれ、週末は雨マークから曇りへと移行走行初日の木曜日はしっかりとした雨。しかし金曜日にはくもり時々パラパラとした雨で正午過ぎには路面も一気にドライ傾向に。ドライでのタイムはトップからコンマ3ほど足りていない。ひと月前のタイヤテストとのフィーリングともズレがあるようで、乗り方等でアジャストしてほしいところ。例によって井上アドバイザーからの助言に佐藤が答えられるのか、前回の繰り返しにはなって欲しくない。



佐藤 凌音 選手



【タイムトライアル】 佐藤 B 組 5位(全体10位)



タイムトライアルは土曜日の15時から A 組が、15時10分からは B 組のタイムトライアルが始まる。抽選の結果、佐藤は B 組となる。通常どのサーキットも天候の変化がない限り A 組有利なタイムトライアル。A 組は TOP グループが36, 5秒を切ってくる想定通りの良いタイム。B 組はどうか…。B 組は15時10分に計測を開始。そこから数分して各車一斉にコースイン。毎回タイムトライアルでの位置取りも課題の佐藤。今回は場所取りは悪くない。タイムの上りも少し他車に比べて遅いものの、上々のタイム。6周回目でベストタイム。しかし佐藤はこの周でピットイン。タイム計測を終える。しかし全体的にみるとタイム

ムは他の選手も7、8周目に出す傾向が強く。タイムの上りが遅かったただけにあと1、2週の周回を重ねたいところであった。そのような判断も3年目のドライバーには身につけてほしいところだ。タイムトライアルは B 組の5位。全体では10位となった。

【第3戦 予選】 佐藤28位(プッシング ペナルティ)

続いて、土曜日は OK クラスのみレースヒートが行われる。15周で争われる第3戦の予選ヒートだ。16時5分にゲートクローズ。10分にローリングが開始される。1周目はミーティングで示された通りのディレイ。2周目も隊列が整わずディレイとなった。OK クラスは34台ものエントリーがあり、また「かぶり」やすぐピーキーな OK エンジンのローリングは2周目でも隊列が最後尾まで整うのは難しそうだ。3周目にレースはスタート。スタートで止まることなく、しっかり完走しつつもレースをしたい佐藤。守る気持ちが大きすぎたのか、スタートで順位をドロップ。18～20位前後に順位を落としてしまう。今大会は各タイヤメーカーの実力差が拮抗し始めており34台中25～6台目までは TOP グループとのタイムもコンマ2～3差と大きすぎる差ではない。レースの上手さが順位に直結する状況となっているのだ…。また各タイヤメーカーでタイム差は拮抗しつつあるものの特性の違いからパッシングには特に各選手、各マテリアルの特徴を掴んだ対応が必要になる。…が、残念ながらその懸念材料がもろにでてしまい佐藤は前方のマシンにパス時に接触。16位でゴールののちにプッシングペナルティを受け10秒の加算。順位は28位へと大きく後退した。土曜日の予定はこのレースヒートで全て終了。佐藤にとっては監督、井上アドバイザー、伊藤メカと真剣に叱咤激励を受ける日となった。



【第3戦 決勝】 佐藤12位

佐藤監督、井上アドバイザー、伊藤メカ、仁科メカ、高木メカとアドバイスをを受けて、3年目のドライバーとしての環境に震えた夜があけ、日曜日は謎の雷マークの天気予報も消えはじめ今週一番のいい天気へ。レースは9時25分スタート。少し後方までバラけたスタートで、接触のリスクはないがスタートで前方を伺うこともできない。昨日の予選では後方グループまでもが TOP グループのコンマ2～3秒落ちで走っていた OK クラスも、ドライバー、マシン、タイヤの差が出始める決勝ではタイムはばらけはじめている。佐藤は2周に1台ほどのペースで順調に追い上げ、またパッシング時にも冷静にリスクが少ないパスを繰り返している。もう少しスタートで順位が上がればシングルだったかも…という思いもあるものの結果16台をパスし、12位でゴール。ただし1コーナー付近に陣取るメカ、井上アドバイザー陣からは、「ラインが遠回り、それに

より更にハンドルを切りフロントが減り、タイヤのコンディションを最後まで保つことが出来ないうえにタイムが出ない」との見解。別ポジションからレースをみていた佐藤監督も同様の見解。佐藤は第4戦レースで修正をすることができるだろうか。

【第4戦 予選】 佐藤6位



11時20分。第3戦の決勝から2時間弱ののち OK クラス第4戦の予選レースは再びタイムトライアル順。つまり佐藤は10位からのスタートとなる。やはり2周のディレイの後スタート。一瞬出遅れたように見えるがアウト側で踏ん張りなんとか順位をキープ。その後うまく1台をパスして9位でオープニングラップを帰ってくる。スタートには少し反応が遅れたが上手くまとめたオープニングラップ。ペースや動きも良さそうだ。トップはダンロップ、ヨコハマ、ブリヂストンが入り乱れているギャラリーからは最高に面白いレース展開。タイムとしてはトップグループはほぼ変わらず、レース巧者が前に出る状況。佐藤は同じタイムを出しながら

ら7位走行。しかし5、6位までは間隔があり、こそ隙間をレーススキルを向上させて埋めたいところだ。最終ラップに入る直前の最終コーナーで佐藤は6位にポジションアップすると、しっかりそのポジションを守りゴール。成長した大人の走りを見せてくれた。しかし TOP はまだ先だ。

【第4戦 決勝】 佐藤7位

14時55分。全日本カート選手権は OK クラス以外の全てのカテゴリーが決勝を終え、最後のレース OK クラス第4戦決勝を迎える。スタート直前にドライバーが集められミーティング。押し掛けが始まる。スタートはやはり2周ディレイ。誰もが止まりたくないこのレース、なかなか1周ディレイの間にエンジンのコントロールと隊列を整えるのは、この34台のエントリーには酷な気もする。スタートは 2 番手の選手が失速し、あわやと思われたが上手く回避。うまくイン側を有利にまわり結果としてはいいスタートとなった。オープニングラップは順位キープの6位でストレートに戻ってくる佐藤。この決勝もブリヂストン、ヨコハマ、



ダンロップと入り乱れ世界でも唯一日本だけのタイヤメーカーが威信をかけたスペシャルタイヤがぶつかりあっている。6位の佐藤だが初動が良くなく5位とは少し間隔がある。7位に迫られている。予選から監督、アドバイザー、メカ達から指摘されている「自分が思っているラインとのずれ」が他車よりも遠回りをさせ、余計なハンドルの舵角とフロントでマシンを止めることによるタイヤダメージ、さらには舵角が発生させる大きなリフトにより明らかに他の選手よりタイヤの消耗が速い。もっと短い距離、少ない舵角で走ることが、さらなるタイム向上とタイヤライフ向上につながる。コンマ1速いだけで勝てそうな・・・そんな決勝序盤の動き。しかし前方でのバトルで1～10位くらいまでグッと接近。そして最終コーナーで上手くパス5位に浮上。強豪佐々木選手の後ろに迫る。しかしこの辺りからやはりタイヤが辛くなる。後続もこのチャンスに次々と佐藤をパス。順位は8位に後退。レースは残り5周。まだまだ指摘の通りタイヤを残すドライビングはできていないが、走りはずいぶん大人になって苦しいながらも8位をキープ。前方にも後方にも少し間隔があり、ほぼ単独走行にちかい状況となる。結局最後まで8位としてゴール。しかしレース後に前方の選手にフロントスポイラー脱落ペナルティが発生し、正式順位は7位へと繰り上がった。残念ながら予選の6位からは順位を1つ落とした7位となったが、今大会で佐藤は私達一回りも二回りも離れた先輩方からきつい助言を受けましたが、第3戦の決勝あたりから顔つきも戦士のようになってきました。きっと前戦、そして今大会のウィークポイントを改善して次戦茂原で最高の結果を残してくれると思います。今大会も応援、ご声援頂きました皆様、誠にありがとうございました。引き続きご声援いただければ幸いです。今回のレースレポート作成にあたり、お写真をフォトグラファー井上大輔様より賜りました。井上様 誠にありがとうございました。

ドライバー 佐藤 凌音 コメント



今回の御殿場大会では第3戦では予選でのスタートミスが響きました。第4戦ではまだ走り方の改善が必要だなと感じたレースでした。

しかし今大会のレースは結果以上に学ぶこと、課題が多くありました。

今大会で学んだ大きなことと課題をこのレースの間にしっかりと改善して茂原大会に望たいと思います。

今大会も応援して下さいました皆様、スポンサーの皆様ありがとうございました！

INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



前回大会の鈴鹿では致命的なミスから流れを引き寄せられず結果を全く出すことが出来なく色々課題を突き付けられた開幕戦となってしまいました。

それを踏まえ、置かれてる現状をチーム全員が把握して意識を変えて一体となって望んだ今大会。

結果はまだまだ良いものではないですが、

選手が勝負に対して何か意識が変わりきっかけを掴んだ大会になったのが何よりも今大会の収穫ではなかったかと思いきや嬉しく思いました。次戦に繋がる様チームメンバー全員全力で努力致します。

最後にレース参戦にあたり、スポンサー様をはじめサポートして下さいました方々に感謝致します。

次戦は良い報告が出来るよう一層努力致します。

INTREPID JAPAN レーシングチーム

